

No. 308【2018年6月1日配信】

青森高等女学校に併置された青森県女子師範学校 (担当: 鈴木)

こんにちは。嘱託員の鈴木です。今日から衣替え。通学風景にも夏の気配が感じられますね。

リンクステーションホール青森（青森市文化会館）の国道側植え込みに、少女像があるのにお気づきでしょうか？

台座には「若き日 なつかしい母校の跡地に思いをよせて」と刻まれています。かつてこの場所には、多くの少女たちが学んだ2つの学校がありました。それは青森県女子師範学校（以下女子師範）と青森県立青森高等女学校（以下青森高女）です。今回は、そのひとつ女子師範のお話です。



青森県女子師範学校と青森高等女学校の同窓会が  
合同で建立した記念碑「若き日」

明治時代になり青森県にも小学校がつぎつぎに開校、教員の養成が急務となり、明治9年（1876）に青森に青森県師範学校が開校しました。さらに同11年には弘前に女子師範学校がつくられましたが、全国的な不況による県の財政難で同18年に閉校となり青森の師範学校に併合されました。

しかしその後、小学校の就学率が向上し生徒数が増えたこと、女生徒に裁縫科が課せられ女子教員養成の必要が生じたことなどで、明治42年頃に青森県に女子師範学校開設の話が持ち上がります。このとき青森市と弘前市との間で猛烈な誘致運動が起こりますが、最終的に現リンクステーションホール青森の場所にあった青森高女（明治41年4月開校）と併置することで認可され、同44年4月15日に女子師範が開校しました。

入学資格は満15歳以上の夫のない女子で、試験科目は高等小学校卒業者と高等女学校3学年課程修了者は国語と算術、それ以外はこれに日本歴史・地理・理科を加えた5教科で、口頭試問と体格検査も行われました。

第1回目の募集には県内外から133名が応募し、合格率23パーセントの狭き門をくぐって30名が入学、小学校教師への道を歩み出します。

校舎は青森高女と共用、初代校長は降屋青森高女校長が兼務し、全寮制のため敷地内には寄宿舎が建設されました。寄宿舎では1室5～6人の共同生活で、なるべく戸外に出るようにという校長の配慮で花壇や運動遊具も備えられました。



青森県女子師範学校が併置された青森高等女学校

ところが開校からいくらか経たない明治45年、男女の師範学校が青森市に集中しているのは公平でないということで女子師範を弘前にという話が持ち上がります。しかし県会で否決され、女子師範は青森市に存続することになりました。

やがて、昭和18年(1943)、学制改革により青森県師範学校と女子師範は廃止され、官立青森師範学校の男子部と女子部になりました。そして、昭和20年7月28日の青森空襲により校舎は全焼、弘前市への移転を余儀なくされました。その後は、昭和24年に国立弘前大学の発足に伴いその包括学校となり、師範学校は昭和26年3月をもって閉校しました。